

平成25年5月27日

大学院教育学研究科日本語教育学講座による  
講演会の開催について

広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座では、下記のとおり講演会を開催いたします。

今回は、アメリカの学術雑誌『ADFL Bulletin』で、アジア人で初めて表彰されたプリンストン大学名誉教授 牧野成一氏による講演です。

記

日 時：平成25年7月4日（木）15：00～16：30

場 所：広島大学東広島キャンパス  
大学院教育学研究科L棟104号室

講 師：プリンストン大学名誉教授 牧野成一

題 目：人はどのように、そして、なぜ繰り返すのか

※入場無料・申込不要

【お問い合わせ先】

大学院教育学研究科日本語教育学講座  
教授 畑佐 由紀子  
TEL:082-424-6867 FAX:082-424-5245

# 日本語教育学講座 講演会のお知らせ

講演

## 牧野成一先生

(プリンストン大学 名誉教授)

題目

### 人はどのように、そして、 なぜくり返すのか

日時

7月4日(木)15:00~16:30

場所

広島大学 教育学部

L棟104号室

#### 発表要旨

人がどのように、そして、なぜくり返すのかを色々な角度から追求していくことと、それが日本語教育とどのように関わるか、という問題を考えていく。ここでは言語行動に現れるくり返しの発話に限定して次のような点を考える。(1) 劇作家平田オリザが区別しているコミュニケーションの型としての「会話」と「対話」は「省略」と「くり返し」という談話機能文法とそれぞれどのように関係し合っているのか。省略に反して「くり返し」は「冗長度」を高めるという理解が一般的であるが、ここでは、「くり返し」に積極的な機能を与える分析をした牧野(1980)の『くりかえしの文法』を「会話」と「対話」との関連で見直してみたいと思う。(2) 俳句のような極端に短く、従って、出来上がるまでにことばを深く切り捨てていく詩は人に詩的情報を伝えることができるのか。この問題と与謝蕪村の俳句「菜の花や 月は東に 日は西に」の英語への翻案を使って考える。(3) 平田の戯曲『東京ノート』ではどのようにくり返しが使われているのか、その会話分析をする。(4) 文体も基本的にはさまざまな言語表現のくり返しである。それを村上春樹の文体を通して探る。(5) 日本語教育では「くり返し」はどう教えるべきか。(6) くり返しの機能を見つけるために野地(1977)の幼児期の第1言語習得のコーパスを吟味する。(7) 脳科学で言われている模倣の原点とも言えるMirror Neuronsの存在、さらには自閉症患者における相づちの欠如を根拠として、くり返しの本質的機能が、社会的な動物としての人間に不可欠な「相互作用」(インターアクション)なのではないかという仮説をたてる。

「広大北口」バス停

広島大学内郵便局



教育学部L棟

申込不要  
無料

お問い合わせ

教育学研究科日本語教育学講座事務局

e-mail: nihongo@hiroshima-u.ac.jp Tel: 082-424-4620